

数値目標及び評価の課題を踏まえた改善案の一例

現行「数値目標」と呼称している指標類を、2つの概念に区分し、それぞれの性質に応じて評価に活用する。

	目標水準の設定と活用方法	タイプ	例
1 指標	<ul style="list-style-type: none"> 指標の性質に応じ、目標水準設定の有無（増減の方向のみ示す場合等も含む）、目標年次を調整。 評価時に実績値を示し、評価の参考にする。 	最終アウトカム 等	健康寿命の延伸 など
2 数値目標	<ul style="list-style-type: none"> 目標水準を設定する。 評価時に実績値及び達成率を示し、評価に活用する。 	中間アウトカム 短期アウトカム アウトプット 等	小学生が週3回以上の運動やスポーツを実施する割合 小学校に体力向上〇〇隊を派遣した数 など

<他県の例>

①目標水準は設定せず、指標のみを示している例がある。

(例) A県 婚姻率、製造業の労働生産性 他

B県 一人当たりの県民所得、有効求人倍率、健康寿命 他

②半数近くの都道府県では、総合計画に各年度の数値目標を示していない。

(ただし庁内的に設定している目標水準などを元に毎年度評価を実施)

・最終年度のみ設定 (例) C県 (10年後)、D県 (4年後) 他

・中間及び最終年度に設定 (例) E県 (中間：5年後 最終：10年後) 他

③評価の公表・作成方法は都道府県によって様々であり、数100ページ以上のものを毎年作成している県もあれば、指標の進捗率のみをHPで公表している県もある。

(参考) アウトプット・アウトカム指標の考え方

